



防災・減災力の強化の推進

さかまききょうど

やおつちょう

逆巻郷土を守る会（岐阜県八百津町）

- 本地域は、農業者の減少と高齢化が進んでいることから地域農業を維持していくためには、地域住民と協力した農地、農業用水路、農道の保安全管理が必要であった。
- 平成22年7月、ゲリラ豪雨による土砂災害を経験したことで地域住民の防災意識が高まり、農業関係者だけでなく、非農家の住民と協力して農業用排水路等の泥上げ清掃活動を行っている。
- 本活動への参加により、地域防災に対する意識向上や減災力の強化に繋がっている。

【地区概要】

- ・取組面積 6ha（田3ha、畑3ha）
 - ・資源量 開水路2.0km、パイプライン1.4km、農道2.0km
 - ・主な構成員 自治会、農業者、子供会、改良組合
 - ・交付金 約0.2百万円（H29）
- 〔 農地維持支払
資源向上支払（共同） 〕

活動開始前の状況や課題

- 急峻な山から木曾川へと流れる、長く高低差のある用排水路の管理には人も時間も多にかかるため、必要最低限の管理に留めていた。
- 平成22年の豪雨により町全域で水路の破損や流入した土砂による水路の閉塞等が発生。当地区では排水されなかった水により家屋への浸水被害を受けた。



被災状況（H22）



取組内容

- 一年間に、山から川へと繋がる水路すべての点検及び泥上げを行う。
- 農業者のみが使う水路という認識では無く、減災のために必要な水路という意識を持ち、非農家を含めた地域住民全員で共同活動を行っている。



上流から下流までの水路の管理

取組の効果

【減災効果】

平成22年以降も数多くのゲリラ豪雨、台風等が発生しており、平成23年の台風においても水路への土砂の流入、閉塞が確認されたが、共同活動として台風通過後に現地を見回り、泥上げ活動を行うなど、迅速な対応をとる事が出来た。

平成24年度以降も共同活動に継続して取り組み水路が良好に維持管理されている賜物か、現在は大きな被害は確認されていない。



上流から下流までの水路の管理